

第17回奈良公園植栽計画検討委員会

浅茅ヶ原・荒池園地 植栽計画（修正案） 抜粋版

※修正部は、赤枠や赤下線で表示しています。

※頁表記は、資料3と同じです。

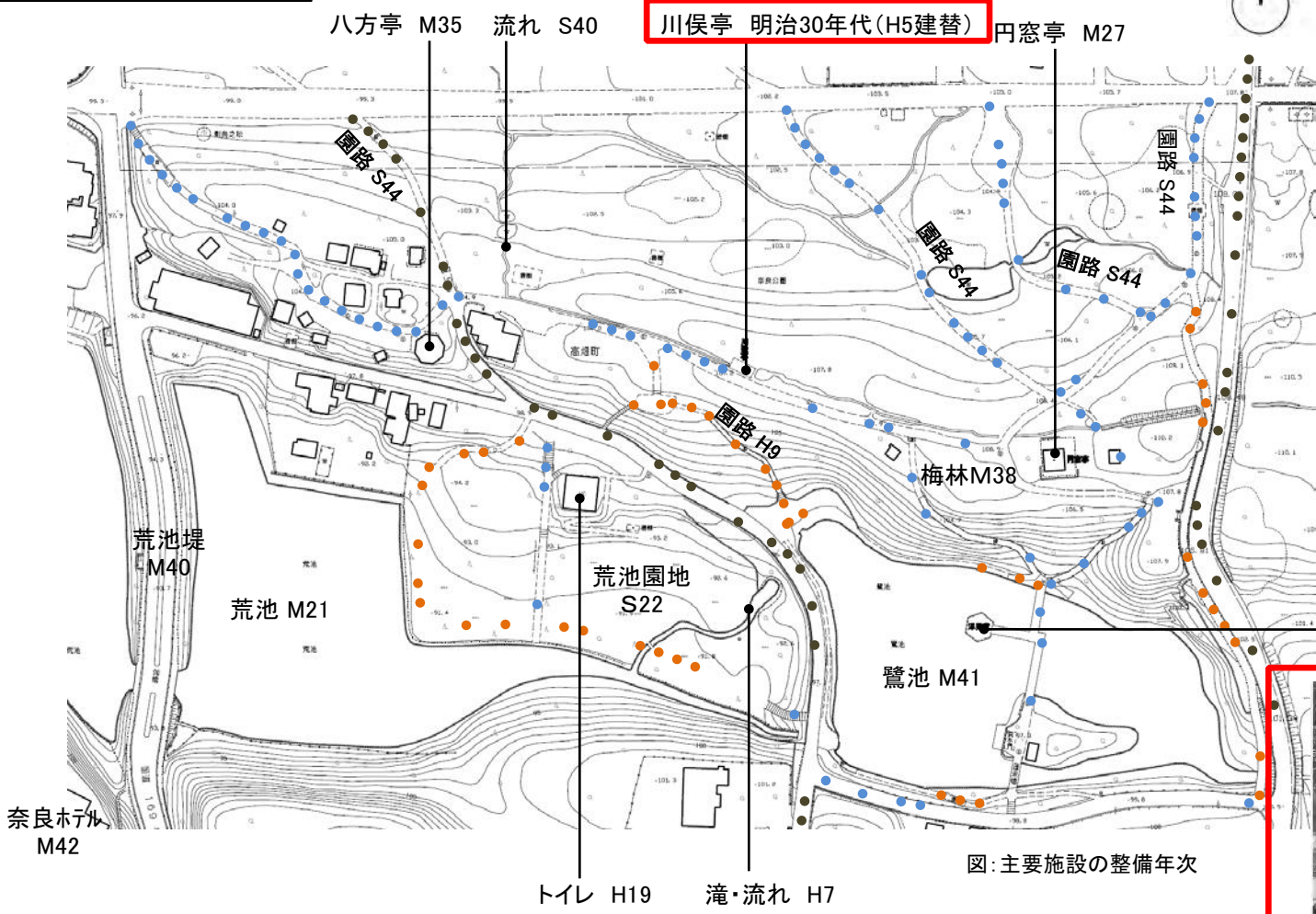
※頁の順番は、資料1に対応しています。

※比較のため一部前回資料を添付しています。

2. 基本条件の整理

参考資料

主要施設の整備年次



- 地図上の道の記載
- ● 明治期の地図
 - ● 1980年の地図
 - ● 現 況



明治期の川俣亭
出典：奈良いまは昔，北村信昭，昭和58年

図：主要施設の整備年次

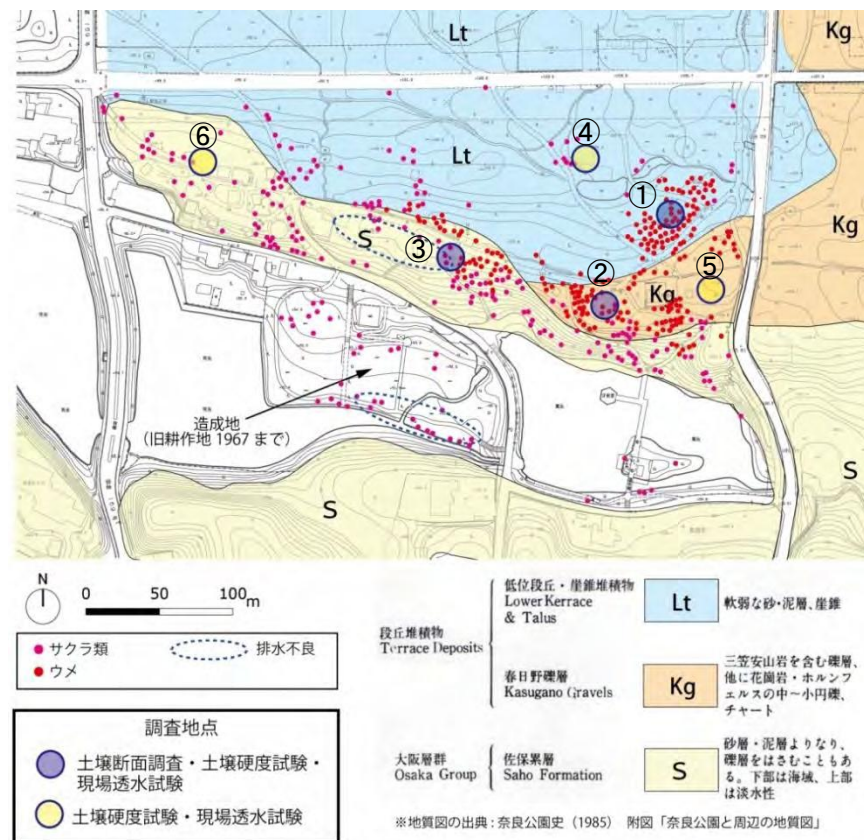
梅林の植栽年次 当初1905 ⇒ 植替1965 (60年間) ⇒ 現在2020(55年間)

追加しました。

3. 植栽の分析

参考資料: 土壌調査

1) 調査地点



2) 調査方法

- 土壌断面調査
一定の大きさの穴を掘り土層面を露出させて調べる方法。本調査では、花木の根系の発達状況も合わせて確認した。
- 土壌硬度試験 (長谷川式土壌貫入計試験)
根系の発達に影響する土壌硬度を計測する試験。
- 現場透水試験 (長谷川式簡易現場透水試験)
植栽基盤の通気透水性を現地で計測する試験。
- 室内分析 (分析中)
①で採取した植栽土壌の化学性の分析を行う。分析項目: PH, EC 全窒素濃度、有効態リン酸濃度、陽イオン交換容量、置換性石灰濃度

3) 調査結果

調査日 令和2年1月14日 凡例: ◎優、○良、△可、×不良、××極不良
※土質所見は、瓦礫等混入物及び立会した文化財担当者の意見を参考に判断した。

地点	層位/厚み (cm)	深さ (cm)	土壌断面調査					土壌硬度		現場透水性	
			土質所見	根系分布	土壌硬度	現場PH	現場EC	0~35	35~75		
①	I	14	~14	客土	△	△	◎	××	△	×	
	II	14	~28	堆積土	なし	△			△		
	III	21	~49	堆積土	なし	△			○		
	IV	-	49~	地山	なし	△			△~××		
④									0~35	×	×
									35~75	△	
									75~95	××	
②	I	18	~18	客土	○	△	◎	××	×	△	
	II	18	~36	客土	△	×			×		
	III	18	~54	堆積土	△	△			×		
	IV	-	54~	地山	なし	×			××		
⑤									0~15	××	△
									15~30	×	
									30~80	××	
③	I	40	~40	客土	◎	△	○	××	×	△	
	II	30	~70	客土?	なし	×			△		
	III	20	~90	造成土?	なし	×			××		
	IV	-	90~	地山	なし	×			××		
⑥									0~20	××	△
									20~50	×	
									50~65	××	

4) まとめ

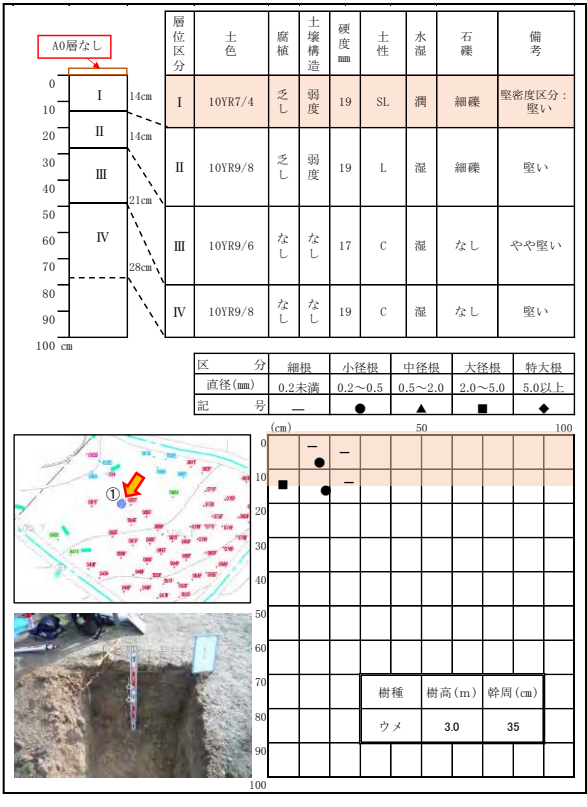
- ①~③は客土 (厚14~40cm) が見られる。ウメの根系はほとんどが客土層にあり、これより深い箇所の根系は限られている。
- 現場計測したPHは問題ないが、ECが低く養分不足を示している。
- ①④は、排水不良が顕著で、地形や土質に起因すると考えられる。
- 土壌改善に向けては、埋蔵文化財への影響に配慮して、新たに客土を加える方法を検討する必要がある。また、場所によって客土の厚み等が異なるため、各地点の客土厚み等の確認が必要である。

3. 植栽の分析

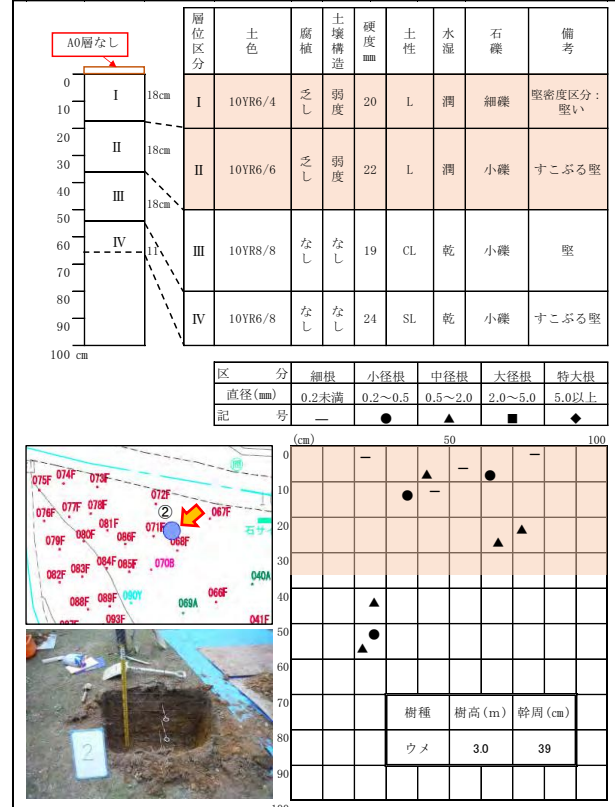
参考資料: 土壌調査

● 土壌断面調査

地点①

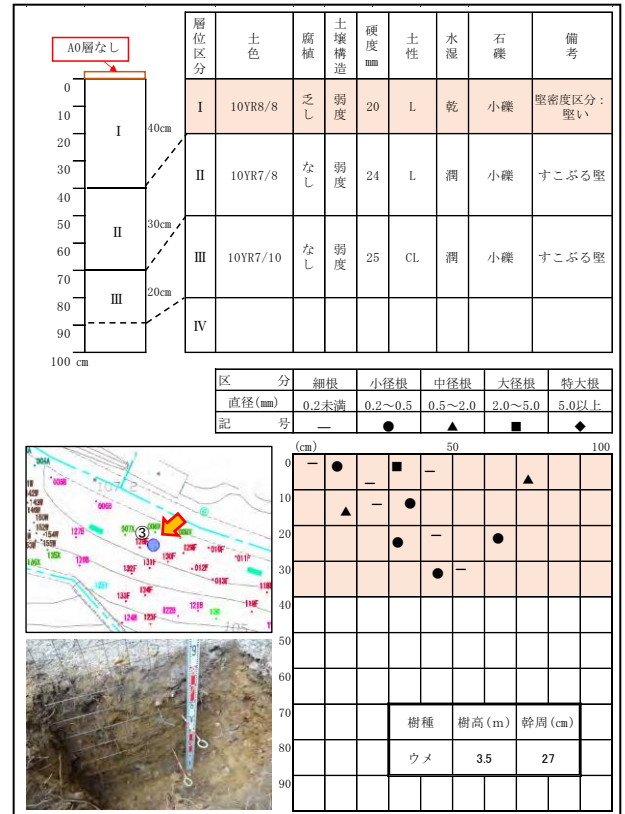


地点②



地点③

客土の層位



3. 植栽の分析

(5) 落葉広葉樹

※コブシとアメリカヤマボウシ(別名ハナミズキ)は花木に分類されるが、他の花木が多いため本項で掲載している。

分布

- ・ いずれの樹種も、鷺池周辺から荒池園地付近に多く分布している。
- ・ シダレヤナギは、荒池園地の水辺に分布している。
- ・ イヌシデ、ネムノキ、センダン は鷺池北側斜面地に分布し、自生木と考えられる。
- ・ コブシは、鷺池北側斜面地に分布している。
- ・ 移入種であるナンキンハゼ、**アメリカヤマボウシ(別名ハナミズキ)**は、数少ないが分布している。

生育

- ・ いずれの樹種も生育に問題はない。

評価

- ・ ケヤキ、エノキ、イヌシデ、センダン、ネムノキ、ムクロジ、カキは自然との調和を評価し、保全・継承すべきである。
- ・ シダレヤナギは、水辺の樹木として調和しているので、保全・継承すべきである。
- ・ コブシは他の花木との調和に配慮しつつ、保全・継承を検討すべきである。
- ・ アメリカヤマボウシは、近年奈良公園に導入されたことから、植栽種に適さない。(21頁参照)
- ・ ナンキンハゼは、駆除対象樹木である。(21頁参照)

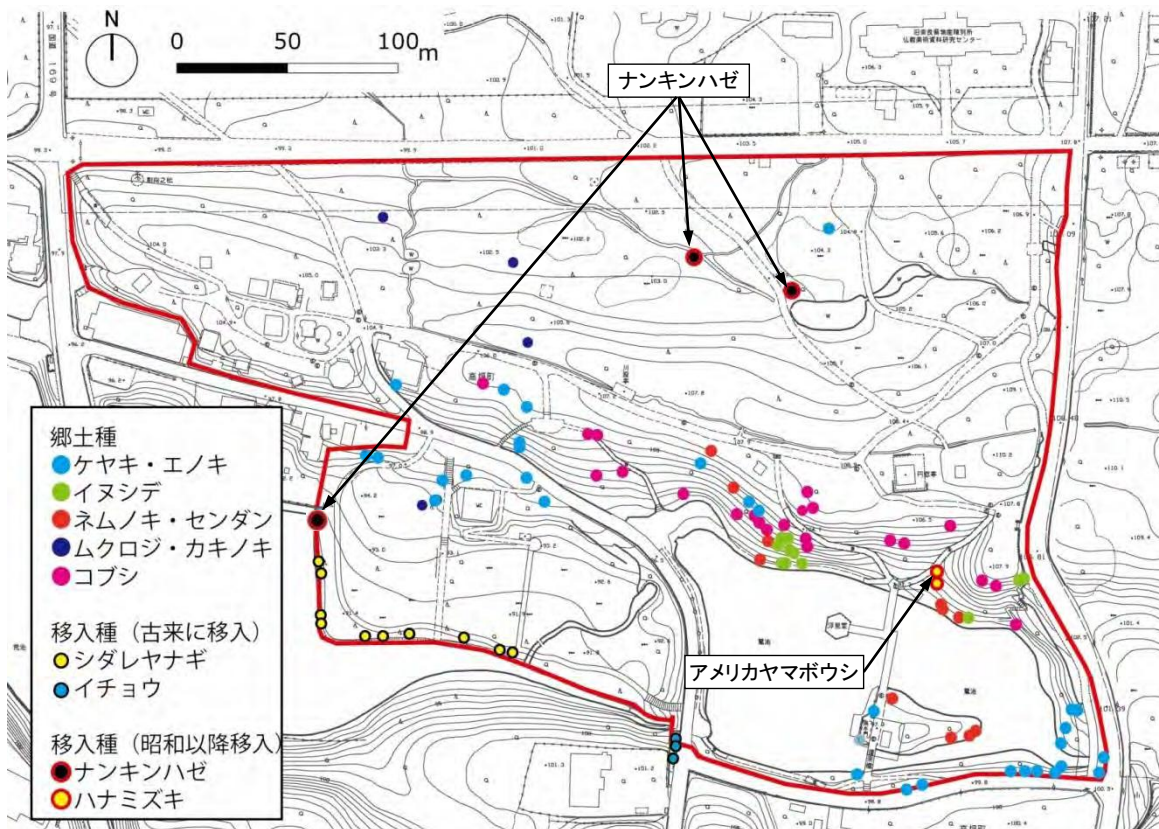


図: 落葉広葉樹の分布

表: 樹種別本数

樹種	本数		
	全数	幹周 2m~	幹周 3m~
ケヤキ	26	10	3
コブシ	24		
イヌシデ	11	2	
シダレヤナギ	10		
ネムノキ	8		
エノキ	5	2	
イチョウ	4	2	
カキ	3	1	
センダン	3		
アメリカヤマボウシ	3		
ナンキンハゼ	3		
ムクロジ	2	2	
合計	102	19	3

参考: コブシについて
奈良県版レッドデータブック2016年改訂版に、コブシは情報不足種として掲載されている。



鷺池北岸斜面地: サクラ類、ケヤキ、コブシ、イヌシデ

3. 植栽の分析

(8)まとめ (問題樹木・不適樹木・検討樹木)

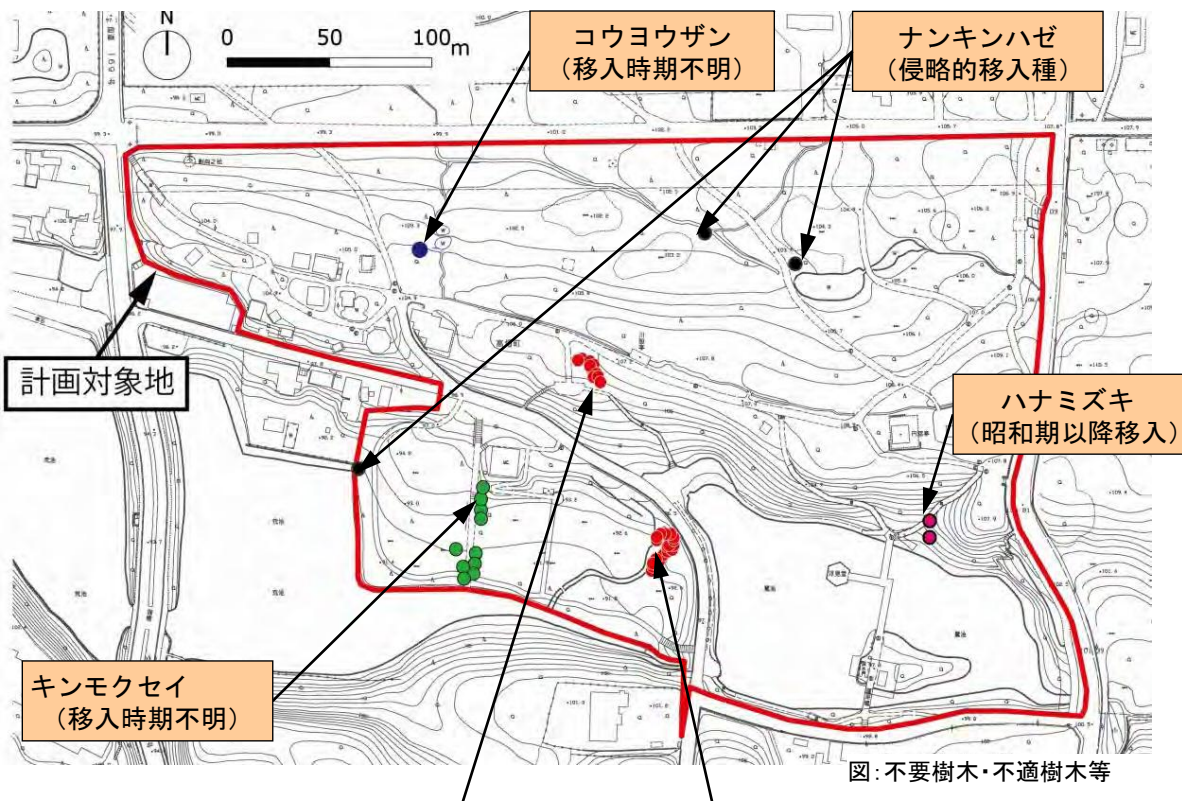
問題樹木・生態系に悪影響を及ぼす侵略的移入種 (ナンキンハゼ) は、伐採する必要がある。
 ・過密植栽や生育不良の樹木は、択伐や移植等によって対処する必要がある。

不適樹木・近年新たに導入された移入種 (ハナミズキ) は、移植や伐採等の対処をする必要がある。

検討樹木・移入時期が不明な種 (コウヨウザン・キンモクセイ) は、樹種の適性を検討する必要がある。

※「古来の樹種」という場合の古来の考え方として、以下の二つがある。

- ①公園開設の明治13年以前
- ②公園開設後に植栽整備が進み、名勝指定を受けた大正11年以前



図：不要樹木・不適樹木等

参考資料：公園全体の植栽方針(抜粋)

方針-2

植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種に限定する。

方針-2検討時の参考資料

■奈良公園の保全と将来構想(1980) 出典：奈良公園史522頁
 公園平坦部への植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種※に限定し、概ね次のとおりとする。

- 針葉樹 クロマツ、アカマツ、スギ、ヒノキ
- 常緑広葉樹 カシ類、シイ類、クス、ツバキ
- 落葉広葉樹 サクラ類、カエデ類、ウメ、シデ類、フジ、サルスベリ
- 低木 アセビ

注：上記の樹種は、奈良公園整備研究委員会提言集(1978)の四手井綱英、森纈、保田與重郎等の提言をまとめたと考えられる。

植栽樹種についての考え方は、明治期から近年まで幾つか見られ、それぞれ表現は異なるものの基本的な考え方は変わっていない。中でも、奈良公園整備研究委員会の提言(1978)を踏まえて検討された「奈良公園の保全と将来構想」(1980)に記述された考え方は、これまでの多様な考え方を包含する内容であり、適切なものと考えられる。

方針-2で規定される「古来の樹種」には、この地域に生育する風土樹種(アカマツ、スギ、モミ、イチイガシなど)のほか、歴史文化的な経緯から古い時代に奈良公園に持ち込まれた樹種(クロマツ、スダジイ、クスノキ、ウメ、サルスベリなど)も含まれるものと考えられる。

イヌマキの密植
 - 択伐等



極端に密植されたイヌマキは択伐や配植の見直しが必要。

カシ類他の密植
 - 択伐等



湧水外周に密植されたカシ類等は、択伐や配植の見直しが必要。

「方針－2 植栽樹種」の運用(案)

方針－2

植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種に限定する。

植栽樹種についての考え方は、明治期から近年まで幾つか見られ、それぞれ表現は異なるものの基本的な考え方は変わっていない。その中でも、奈良公園整備研究委員会の提言(1978)を踏まえて検討された「奈良公園の保全と将来構想」(1980)に記述された考え方は、これまでの多様な考え方を包含する内容であり、適切なものと考えられる。方針-2で規定される「古来の樹種」には、この地域に生育する郷土種(アカマツ、スギ、モミ、イチイガシなど)のほか、歴史文化的な経緯から古い時代に奈良公園に持ち込まれた樹種(クロマツ、スダジイ、クスノキ、ウメ、サルスベリなど)も含まれるものと考えられる。

参考資料

■奈良公園の保全と将来構想(1980) 出典:奈良公園史522頁

公園平坦部への植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種に限定し、概ね次のとおりとする。

針葉樹	クロマツ、アカマツ、スギ、ヒノキ
常緑広葉樹	カシ類、シイ類、クス、ツバキ
落葉広葉樹	サクラ類、カエデ類、ウメ、シデ類、フジ、サルスベリ
低木	アセビ

注:上記の樹種は、奈良公園整備研究委員会提言集(1978)の四手井綱英、森蘊、保田與重郎等の提言をまとめたと考えられる。

方針－3

ナンキンハゼは自然環境の保全に支障を来す恐れのあることから、原則として駆除する。但し、以下のものについては、植栽管理等により自然増殖を抑制する場合に限り、例外として駆除対象外とする。

- 例外を認めるもの
- ① 奈良公園の景観の一部として欠かせないもの。
 - ② 公園の植栽として歴史的価値のあるもの。

「古来の樹種」の考え方(案)

奈良公園は、明治13年の公園開設後、公園開設以前からあった樹木を保護しつつ(※1)、新たな樹木を加える植栽整備が行われた(※2)結果、景観としての美しさが評価され安定してきたことから、大正11年に名勝指定を受けたと考えられる。このことから、方針-2で示された「古来の樹種」にあたる樹種は、名勝指定時点において奈良公園内に存在していたと考えられる。

よって、奈良公園植栽計画では、「古来の樹種」は各種資料等から名勝指定時点において存在していたことが確認できる樹種とする。

●名勝指定時点の存在が確認可能な樹種の例

- ※1 春日山原始林植生調査の出現種(ナンキンハゼ等の移入種除く)
- ※1 天然記念物に指定された樹木や名木の樹種
- ※1,2 樹齢から明治期の存在が確認できる樹種
- ※2 明治期の文献・整備記録に記載され、現在も同範囲に現存する樹種

●名勝指定時点での存在が確認できない移入種について

これについては、奈良公園内の分布、植栽地の整備時期、植栽形態、樹木規格等から名勝指定時点の状況を推察したうえで、当該樹種の景観形成上の役割や奈良公園の景観イメージとの調和等を勘案して、個別に対応を検討する。

「名勝指定以降に導入された樹種」の現存樹木の取り扱い(案)

●自然環境や景観の保全への影響が少ない樹木

当該樹木が、衰退・枯死した時、病中害・風害を受けた時、隣接地で工事等が発生した時などの機会にあわせて樹種変更する。

●自然環境や景観の保全への影響が大きい樹木

できるだけ速やかに伐採除去や樹種変更を行う。
(ナンキンハゼについては、別途に方針-3を設定している)

3. 植栽の分析

(8) まとめ (問題樹木)

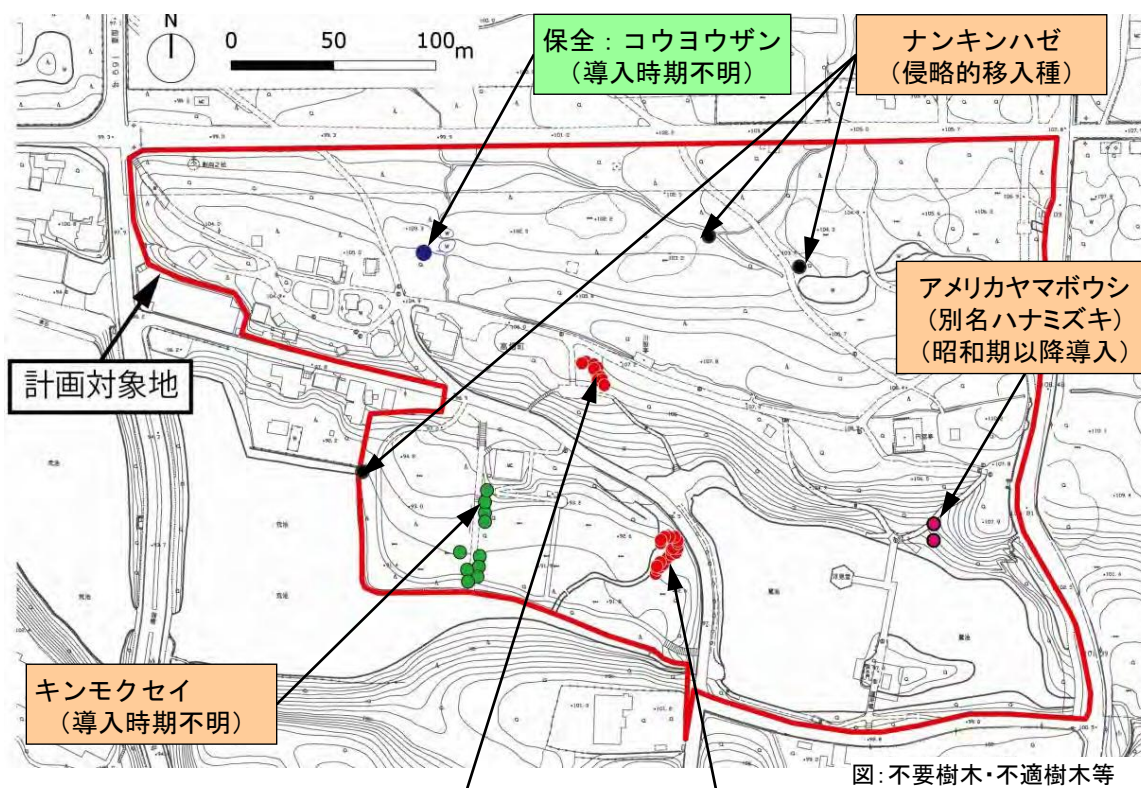
過剰密度の樹木：過剰な密植のイヌマキとカシ類の植栽は、択伐等の対処が必要である。

ナンキンハゼ：生態系に悪影響を及ぼす侵略的移入種(ナンキンハゼ)は、伐採する必要がある。

アメリカヤマボウシ(別名ハナミズキ)：「公園全体の植栽方針・方針-2」に適さないため、適切な機会に樹種変更する必要がある。

キンモクセイ：「公園全体の植栽方針・方針-2」に適さない可能性が高いため、適切な機会に樹種変更する必要がある。

コウヨウザン：「公園全体の植栽方針・方針-2」に適する可能性があるため、現位置のコウヨウザンは保全・継承することが望ましい。



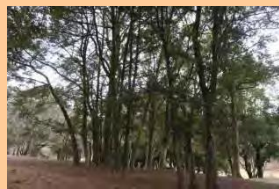
キンモクセイの導入時期について
 キンモクセイは、中国原産で、江戸時代に日本に渡来したという通説がある※。日本には雄株しかない。
 奈良公園への導入時期に関する記録はない。奈良公園では、荒池園地、春日野園地、興福寺国宝館に植栽されているが、いずれも昭和期に整備されたところで、現存する樹木も古木ではないことから、奈良公園へのキンモクセイの導入時期は、昭和期以降である可能性が高いと考えられる。
 ※出典：山溪ハンディ図鑑「樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物」山と溪谷社

コウヨウザンの導入時期について
 コウヨウザンは、中国原産で、日本への渡来時期は諸説あるが、近年は現存樹木の推定樹齢から江戸期以前に日本に渡来している可能性が指摘されている。
 奈良公園への導入時期に関する記録はない。国内に現存するコウヨウザンの大木の多くは社寺境内に植栽されており、浅茅ヶ原が春日大社旧境内地であることから、コウヨウザンが植栽されていた可能性もあり、その場合には名勝指定以前に存在していたことも考えられる。

●コウヨウザンのそもそもと研究の現状(抜粋)
 近藤禎二(国立研究開発法人森林総合研究所)
 コウヨウザンは、中国・台湾原産のヒノキ科コウヨウザン属の常緑針葉樹でわが国には寺社を中心に江戸時代以前にも導入されている。
 出典：国立研究開発法人森林総合研究所 林木遺伝資源連絡会誌 2016 No.1

●永泉寺のコウヨウザン
 このコウヨウザンは、永正14年(1517年)に永泉寺(応仁2年(1468年)創立)三代目の住職。心操全忠大和尚が全国行脚の折、四国から持ち来たと植えたものといわれる。中国原産といわれるこの木が、関東より北部にあるのは唯一で、貴重な存在である。
 樹高29.0m 幹周り5.50m 樹齢 500年
 ◇県指定天然記念物 ◇県指定緑の文化財 所在/須賀川市長沼
 出典：福島県HP・平成28・29年度巨木調査結果

イヌマキの密植
 - 択伐等



過剰に密植されたイヌマキは択抜や配植の見直しが必要。

カシ類他の密植
 - 択伐等



湧水外周に密植されたカシ類等は、択抜や配植の見直しが必要。

図：不要樹木・不適樹木等

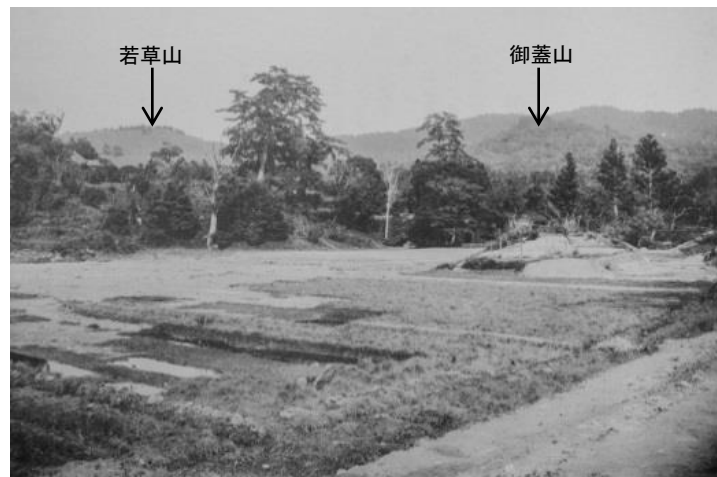
4. 景観の分析

(2) 眺望景観の分析

2) 樹高と密度を管理すべき樹林(浅茅ヶ原東端の樹林) 前回は参考資料として掲載

④ 鷺池南西から若草山・御蓋山

大正期まで：若草山と御蓋山が見える。浅茅ヶ原の大きな樹木は点在する程度である。
昭和期：若草山は見えない。浅茅ヶ原の樹木が増え、樹高が高くなる。
現在：若草山と御蓋山は見えない。アカマツからカシ類に遷移している。



出典：奈良県名勝写真帖 明治43年



出典：絵葉書 昭和10年頃



出典：絵葉書 昭和30年代




2019年撮影

4. 景観の分析

(4)まとめ(植栽の景観評価)


鷺池へのアプローチ樹林
 - 現況を保全・継承

鷺池へのアプローチ両側の樹林が、景観展開の効果を高めていることから、保全・継承が望ましい。




春日大社の参道景観を形成する樹林
 - 現況を保全・継承

- 参道景観を形成するクロマツ林、スギ林、芝地の保全
- 継承が必要である。
- 他の春日大社境内と同様に、スギやイチイガシ、フジの保全・継承が望ましい。




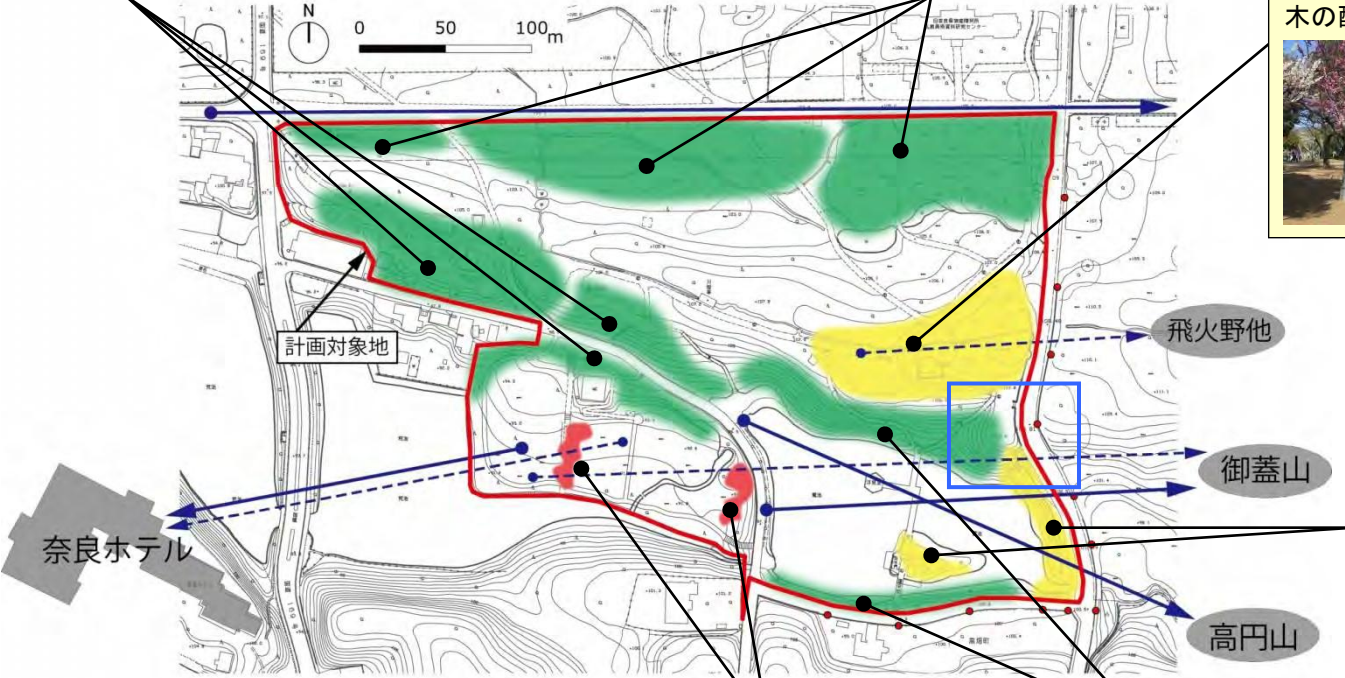
円窓亭（移設予定）附近の植栽
 - 改善して保全・継承

円窓亭移設後の状況にあわせて、梅林の景観と、飛火野等への眺望の改善のため、ウメや周辺樹木の配植の見直しが必要である。



御蓋山や高円山への眺望を保全する樹林
 - 改善して保全・継承


御蓋山や高円山への眺望の支障となる電柱や通行車両を遮蔽する樹林として、樹高や密度を改善し、それを維持することが望ましい。

図：植栽の景観評価


眺望を阻害する樹林
 - 改善して保全・継承

荒池園地から御蓋山や奈良ホテルへの眺望を阻害している樹林は、択伐等の対策が必要である。



鷺池の景観を形成する樹林
 - 現況を保全・継承

鷺池の南北両岸にある樹林が、景観に落ち着きと一体性を与えている。



●——▶ 比較的良好な眺望
 ●- - -▶ 阻害されている眺望


評価区分	現況を保全・継承
	改善して保全・継承

4. 景観の分析

(4) まとめ(植栽の景観評価)


鷺池へのアプローチ樹林
— 現況を保全・継承

鷺池へのアプローチ
両側の樹林が、景観
展開の効果を高めて
いることから、保全
・継承が望ましい。



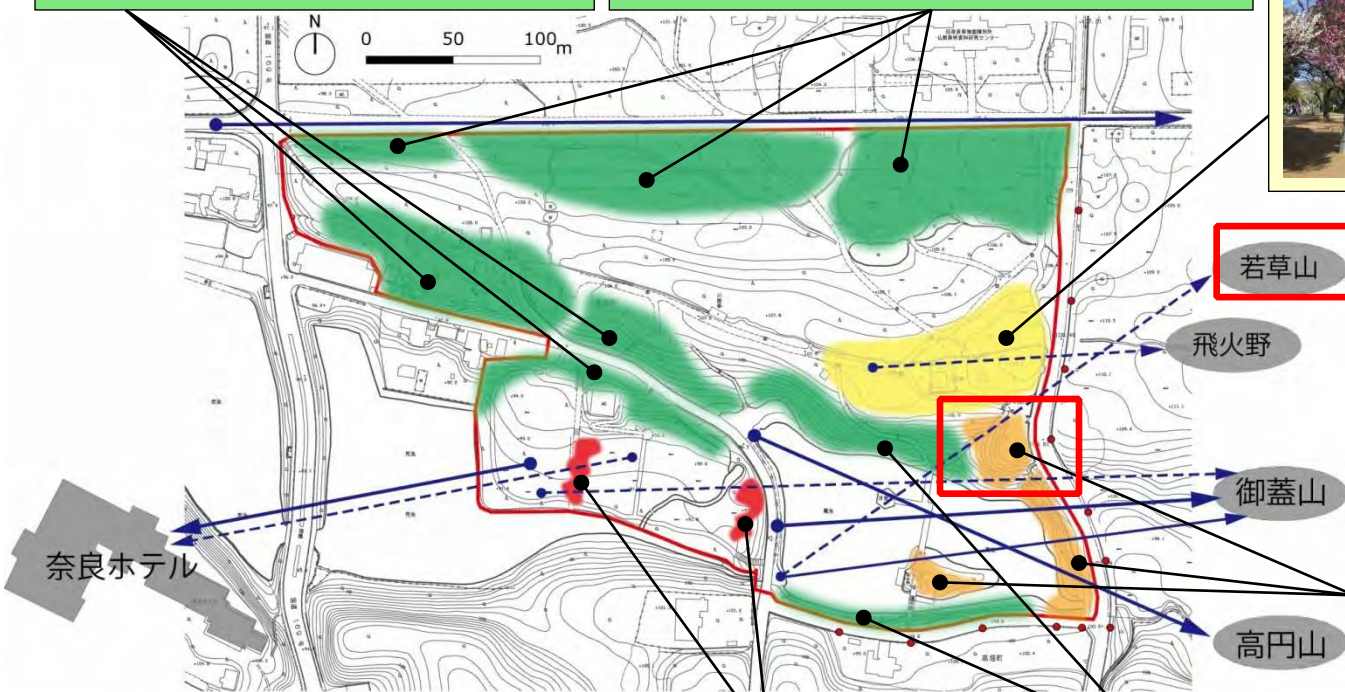
春日大社の参道景観を形成する樹林
— 現況を保全・継承

- ・参道景観を形成するクロマツ林、スギ林、芝地の保全
- ・継承が必要である。
- ・他の春日大社境内と同様に、スギやイチイガシ、フジの保全・継承が望ましい。




円窓亭（移設予定）附近の植栽
— 改善して保全・継承

円窓亭移設後の状況にあわせて、梅林の景観と、飛火野等への眺望の改善のため、ウメや周辺樹木の配植の見直しが必要である。

若草山
御蓋山・高円山・若草山への眺望を保全する樹林
— 改善して保全・継承

御蓋山等の山地への眺望を保全しつつ、支障となる電柱や通行車両を遮蔽する樹林として、樹高や密度を改善し、それを維持することが望ましい。




●——▶ 比較的良好な眺望
●- - -▶ 阻害されている眺望

評価 区分	現況を保全・継承
	改善して保全・継承

図：植栽の景観評価


眺望を阻害する樹林
— 改善して保全・継承

荒池園地から御蓋山や奈良ホテルへの眺望を阻害している樹林は、択伐等の対策が必要である。



鷺池の景観を形成する樹林
— 現況を保全・継承

鷺池の南北両岸にある樹林が、景観に落ち着きと一体性を与えている。

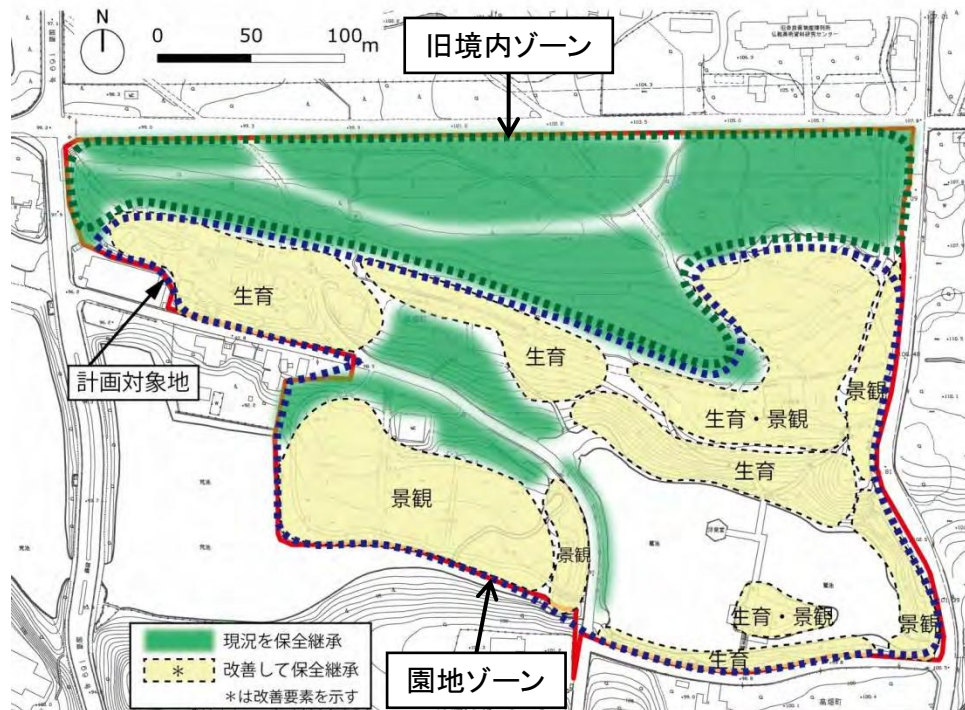


5. 分析のまとめ

植栽の生育と景観の評価

これまでの分析・評価を踏まえ、植栽計画に向けての課題をとりまとめる。

- ・計画対象地は、春日大社の旧境内に由来するゾーン(旧境内ゾーン)と、公園開設後の園地整備によって形成されたゾーン(園地ゾーン)があり、それぞれに植栽や景観が異なる。
- ・旧境内ゾーンは、参道北側等の隣接地と一体となって、春日大社の参道空間を形成している。植栽は公園開設以前からの樹林を保全・継承しており、現状において問題は少ない。但し、世代交代や病虫害対策など将来に向けての課題がある。
- ・園地ゾーンは、山地等への眺望や多様な花木に特徴がある景観が形成されている。植栽は、花木等の生育不良や眺望阻害などの問題点があり、これらを改善する必要がある。



図：植栽の評価のまとめ

旧境内ゾーン

ナラ枯れ：カシノナガキクイムシが病原菌を運び込むこと
によって引き起こされるナラ類やシイ・カン類の樹木の伝染病。

●将来に向けての課題

①将来訪れる世代交代

スギとイチイガシは、単一樹齢に近い樹林のため、今後の生長・衰退の先に訪れる世代交代に備えることが望ましい。

②ナラ枯れ等の予防

近年は、奈良公園内にもナラ枯れの発生が多数見られる。ナラ枯れは、大径木化が罹病の誘因の一つであることから、多齢林化を含む予防策の検討が望しい。

園地ゾーン

●生育の問題点

③花木と高木の混在

花木とカシ類やニレ類などの高木が混在するところでは、鬱閉度が高いため、日照を好む花木を被圧して、生育不良や衰退を引き起こしている。

④花木の過密による生育不良

梅林など花木の植栽密度が高いところでは、花木相互の競合により、生育不良が生じている。

⑤花木の老衰

ソメイヨシノやウメは、植栽後50年前後経過して老衰による植替え時期が到来していると考えられる。

●景観の問題点・課題

⑥樹木の生長による眺望景観の阻害

樹木生長によって、樹高や枝張が伸長し、枝葉が繁茂したため、眺望を阻害している。

⑦遮蔽と眺望の両立

眺望方向に位置する道路沿い樹林は、電柱や通行車両の遮蔽と眺望の両立が課題である。

⑧円窓亭移築後の対応

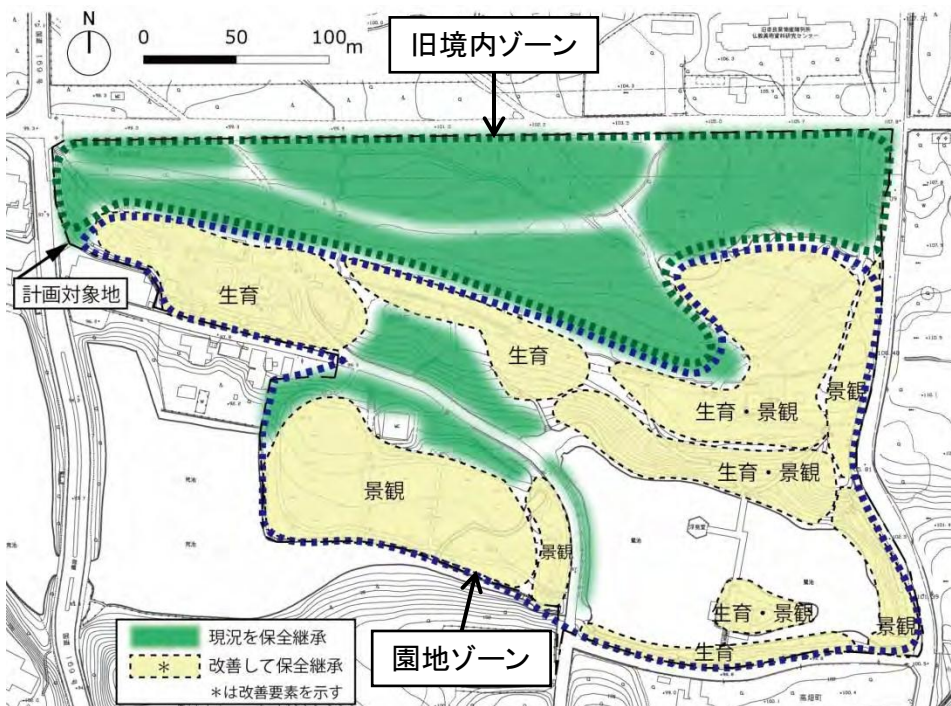
円窓亭移築後は、梅林や眺望に配慮した配植の見直しが、課題である。

5. 分析のまとめ

植栽の生育と景観の評価

これまでの分析・評価を踏まえ、植栽計画に向けての課題をとりまとめる。

- ・計画対象地は、春日大社の旧境内に由来するゾーン(旧境内ゾーン)と、公園開設後の園地整備によって形成されたゾーン(園地ゾーン)があり、それぞれに植栽や景観が異なる。
- ・旧境内ゾーンは、参道北側等の隣接地と一体となって、春日大社の参道空間を形成している。植栽は公園開設以前からの樹林を保全・継承しており、現状において問題は少ない。但し、世代交代や病虫害対策など将来に向けての課題がある。
- ・園地ゾーンは、山地等への眺望や多様な花木に特徴がある景観が形成されている。植栽は、花木等の生育不良や眺望阻害などの問題点があり、これらを改善する必要がある。



図：植栽の評価のまとめ

旧境内ゾーン

ナラ枯れ：カシノナガキクイムシが病原菌を運び込むこと
によって引き起こされるナラ類やシイ・カン類の樹木の伝染病。

- 将来に向けての課題
- ①将来訪れる世代交代
スギとイチイガシは、単一樹齢に近い樹林のため、今後の
生長・衰退の先に訪れる世代交代に備えることが望ましい。
- ②ナラ枯れ等の予防
近年は、奈良公園内にもナラ枯れの発生が多数見られる。ナ
ラ枯れは、大径木化が罹病の誘因の一つであることから、多
齢林化を含む予防策の検討が望しい。

園地ゾーン

- 生育の問題点
- ③花木と高木の混在
花木とカシ類やニレ類などの高木が混在するところでは、鬱
閉度が高いため、日照を好む花木を被圧して、生育不良や衰
退を引き起こしている。
- ④花木の過密による生育不良
梅林など花木の植栽密度が高いところでは、花木相互の競合
により、生育不良が生じている。
- ⑤花木の老衰
ソメイヨシノやウメは、植栽後50年前後経過して老衰による
植替え時期が到来していると考えられる。

- 景観の問題点・課題
- ⑥樹木の生長による眺望阻害や開放感の喪失
樹高や枝張が伸長し、枝葉が繁茂したため、山地への眺望が
阻害され、鷺池周辺景観の開放感や明るさが失われている。
- ⑦遮蔽と眺望の両立
眺望方向に位置する道路沿い樹林は、電柱や通行車両の遮蔽
と眺望の両立が課題である。
- ⑧円窓亭移築後の対応
円窓亭移築後は、梅林や眺望に配慮した配植の見直しが、課
題である。

6. 植栽計画

(1) 基本的な考え方

「計画対象地を特徴づける植栽・景観を保全・継承する。」

- 二つのゾーンの特徴を保全・継承する。
計画対象地には、旧境内ゾーンと園地ゾーンがあり、それぞれのゾーンを特徴づける植栽・景観を保全・継承する。

旧境内ゾーンの特徴

- ・春日大社の旧境内地の植生・景観を継承している。
- ・春日大社と一体となり、参道景観を形成している。
- ・イチイガシとスギの巨樹を含む大径木の樹林がある。

園地ゾーンの特徴

- ・尾根地形を活かした多彩な花木が見られる。
- ・池周辺や芝地の拡がりや花木が見られる。
- ・御蓋山、高円山、奈良ホテル等に向けた眺望景観がある。
- ・樹林地に佇む料理旅館群の独特の景観がある。
- ・率川の自然な植栽・景観と連続性・一体性がある。

- 景観や利用の連続性や一体性に配慮する
計画対象地と周辺地は、景観や利用の連続性や一体性があり、これが特徴となっている。上述したゾーンの特徴を保全・継承しつつ、これらの連続性や一体性に配慮する。

※ナラ枯れ：カシノナガキクイムシが病原菌を運び込むことよって引き起こされるナラ類やシイ・カシ類の樹木の伝染病。

旧境内ゾーン：「将来の植栽の変化に備えた対応を行う。」

- 更なる生長と世代交代への対応（多齡林化・巨樹育成）
スギとイチイガシの樹林は良好に生長し、大径木を多数有している。今後更なる生長が想定されるが、単齡に近い樹林のため、将来訪れる世代交代に備えて、時間を掛けて多齡林化を進める。また、スギやイチイガシの巨樹の育成のため、これを目標とした管理を行う。
- マツ材線虫病やナラ枯れに備えた樹林づくり
マツ材線虫病やナラ枯れ※は、大径木化や被害樹種の優占率の高さが誘因の一つと考えられることから、樹齡や樹種の多様化を図り、被害の防除、軽減に努める。

園地ゾーン：「健全な生育と魅力維持を図る。」

- 眺望景観に配慮した植栽管理
・鷺池や円窓亭付近の眺望点から若草山、春日山、御蓋山、高円山への眺望景観に配慮した植栽管理を行う。
- 花木の生育環境の改善
・花木の日照条件や水分条件の改善を図るため、花木と高木の植栽範囲を見直し、良好な生育環境を整える。
・花木の健全な生長や演出効果に配慮して、植栽密度の見直しを行う。
- 花木類の樹種・品種の見直し
・ナラノヤエザクラなど虚弱品種の衰退が著しいことから、長寿の原種のサクラ類（エドヒガン、カスミザクラ等）や強健な品種（ソメイヨシノ等）への植替を行う。
・ナラノヤエザクラなどの虚弱品種は、荒池園地の芝地など良好な生育・管理条件が整ったところに限る。
- 建築物周辺の配植の見直し
・料理旅館周辺の植栽は、景観、施設利用、管理等の諸条件に適した植栽となるように見直す。
・円窓亭附近は、移設後の状況にふさわしい植栽に見直す。
- 特徴的樹種の補植
・アカマツ、イヌシデ、アセビなど、ゾーンを特徴づける樹種で減少しているものは、適地を選定して補植する。

6. 植栽計画

(1) 基本的な考え方

「計画対象地を特徴づける植栽・景観を保全・継承する。」

- 二つのゾーンの特徴を保全・継承する。
計画対象地には、旧境内ゾーンと園地ゾーンがあり、それぞれのゾーンを特徴づける植栽・景観を保全・継承する。

旧境内ゾーンの特徴

- ・春日大社の旧境内地の植生・景観を継承している。
- ・春日大社と一体となり、参道景観を形成している。
- ・イチイガシとスギの巨樹を含む大径木の樹林がある。

園地ゾーンの特徴

- ・尾根地形を活かした多彩な花木が見られる。
- ・池周辺や芝地の拡がりと花木が見られる。
- ・御蓋山、高円山、奈良ホテル等に向けた眺望景観がある。
- ・樹林地に佇む料理旅館群の独特の景観がある。
- ・率川の自然な植栽・景観と連続性・一体性がある。

- 景観や利用の連続性や一体性に配慮する
計画対象地と周辺地は、景観や利用の連続性や一体性があり、これが特徴となっている。上述したゾーンの特徴を保全・継承しつつ、これらの連続性や一体性に配慮する。

※ナラ枯れ：カシノナガキクイムシが病原菌を運び込むことよって引き起こされるナラ類やシイ・カシ類の樹木の伝染病。

旧境内ゾーン：「将来の植栽の変化に備えた対応を行う。」

- 更なる生長と世代交代への対応（多齡林化・巨樹育成）
スギとイチイガシの樹林は良好に生長し、大径木を多数有している。今後更なる生長が想定されるが、単齡に近い樹林のため、将来訪れる世代交代に備えて、時間を掛けて多齡林化を進める。また、スギやイチイガシの巨樹の育成のため、これを目標とした管理を行う。
- マツ材線虫病やナラ枯れに備えた樹林づくり
マツ材線虫病やナラ枯れ※は、大径木化や被害樹種の優占率の高さが誘因の一つと考えられることから、樹齡や樹種の多様化を図り、被害の防除、軽減に努める。

園地ゾーン：「健全な生育と魅力維持を図る。」

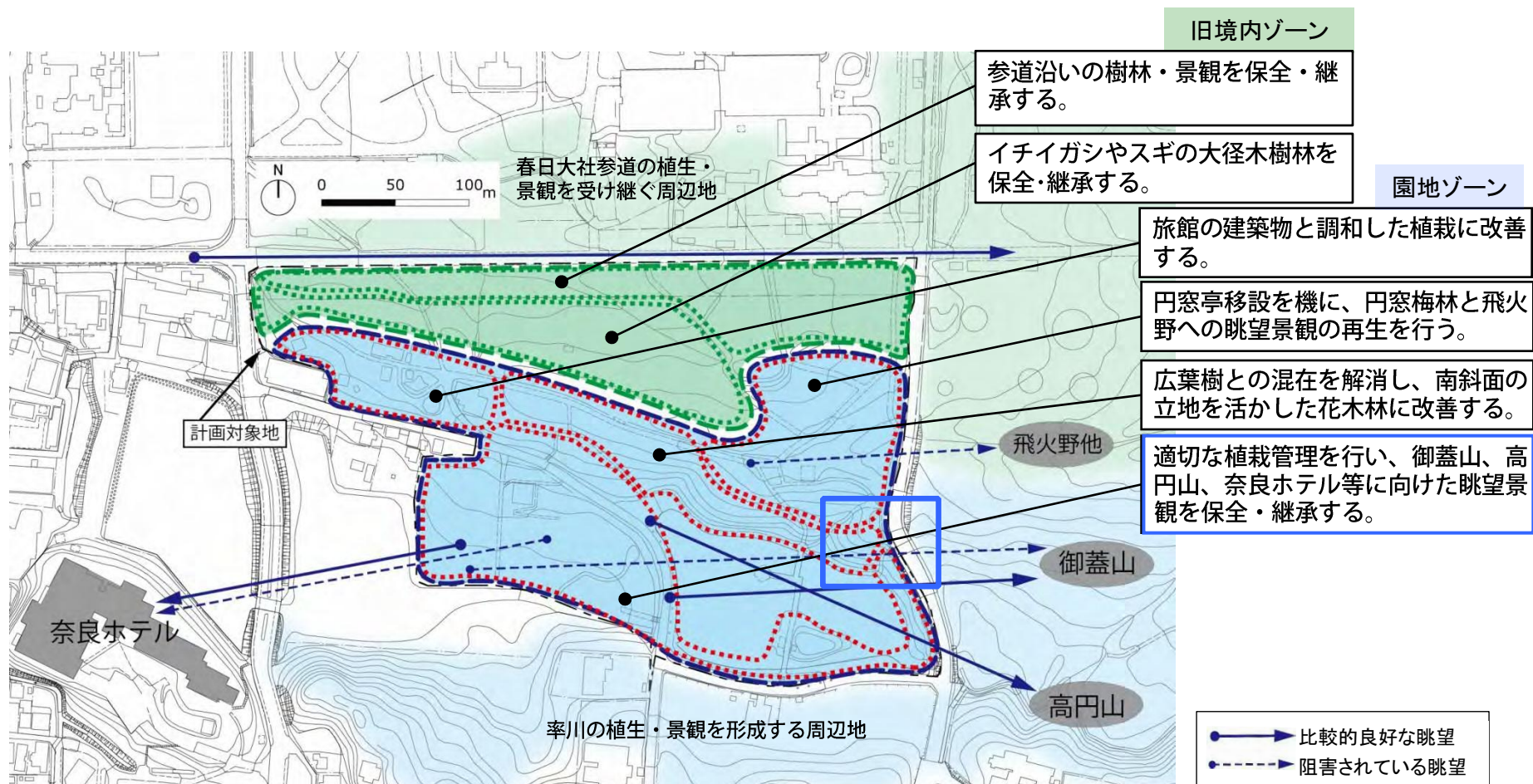
- 眺望や景観の開放感に配慮した植栽管理
・鷺池や円窓亭付近の眺望点から若草山、春日山、御蓋山、高円山への眺望と、景観の開放感や明るさに配慮した植栽管理を行う。
- 花木の生育環境の改善
・花木の日照条件や水分条件の改善を図るため、花木と高木の植栽範囲を見直し、良好な生育環境を整える。
・花木の健全な生長や演出効果に配慮して、植栽密度の見直しを行う。
- 花木類の樹種・品種の見直し
・ナラノヤエザクラなど虚弱品種の衰退が著しいことから、長寿の原種のサクラ類(エドヒガン、カスミザクラ等)や強健な品種(ソメイヨシノ等)への植替を行う。
・ナラノヤエザクラなどの虚弱品種は、荒池園地の芝地など良好な生育・管理条件が整ったところに限る。
- 建築物周辺の配植の見直し
・料理旅館周辺の植栽は、景観、施設利用、管理等の諸条件に適した植栽となるように見直す。
・円窓亭附近は、移設後の状況にふさわしい植栽に見直す。
- 特徴的樹種の補植
・アカマツ、イヌシデ、アセビなど、ゾーンを特徴づける樹種で減少しているものは、適地を選定して補植する。

6. 植栽計画

(2) 計画方針

計画方針：旧境内地と園地の特徴を活かした植栽・景観を保全・継承する。

- ・旧境内ゾーンは、公園開設以前の春日大社旧境内から受け継いできた植栽や景観を保全・継承する。
- ・園地ゾーンは、園地の魅力である梅林や鷺池一带の花木林と、山地等への眺望景観を保存・継承する。



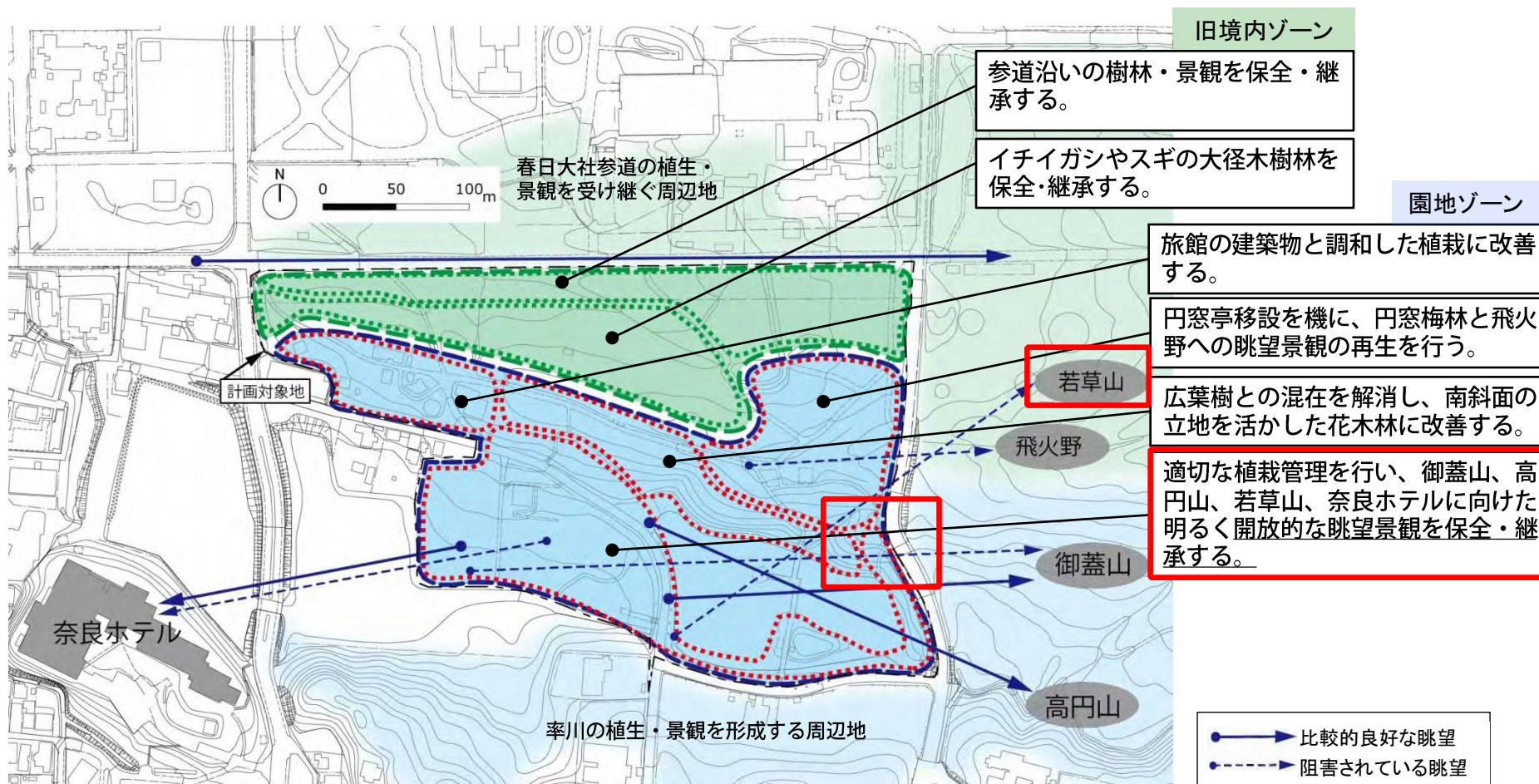
図：計画方針図

6. 植栽計画

(2) 計画方針

計画方針：旧境内地と園地の特徴を活かした植栽・景観を保全・継承する。

- ・旧境内ゾーンは、公園開設以前の春日大社旧境内から受け継いできた植栽や景観を保全・継承する。
- ・園地ゾーンは、園地の魅力である梅林や鷺池一带の花木林と、山地等への眺望景観を保存・継承する。



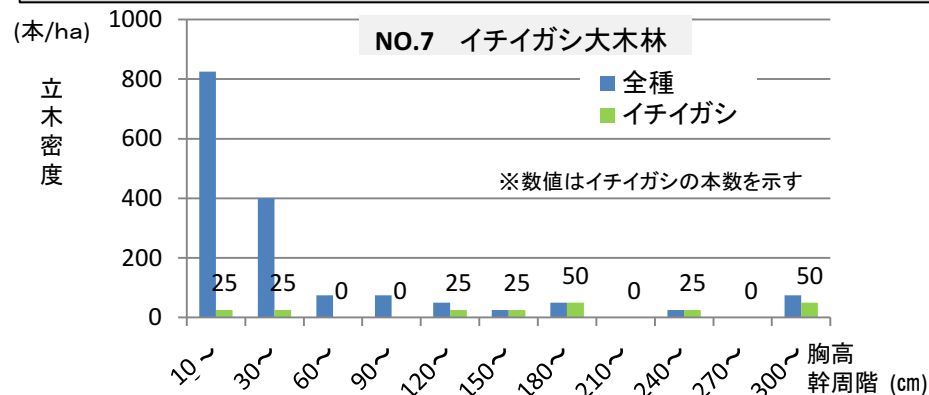
図：計画方針図

6. 植栽計画

参考資料: 天然林の林相(春日山原始林)

データ出典: 平成21年度名勝奈良公園保存
管理・活用計画策定検討業務

・春日山原始林の一部である下記の樹林は、計画対象地の原初の自然に近いと考えられる。下記データ(H21年)では、イチイガシは幅広い階層に分布している。
・現在、春日山原始林はシカによる林床植生への影響が問題視されており、H25年から植生保護柵による実証実験が行われている。



調査区20m×20m	樹幹		胸高断面積		相対優占度	最大胸高直径(cm)
	樹種名	本数	相対値(%)	合計(m ²)		
高木種						
イチイガシ	8	14.3	2.649	75.7	45.0	116.2
スタジイ	4	7.1	0.176	5.0	6.1	33.7
モミ	2	3.6	0.247	7.1	5.3	47.4
アラカシ	1	1.8	0.093	2.7	2.2	34.0
カコノキ	1	1.8	0.054	1.5	1.7	26.1
クロガネモチ	1	1.8	0.040	1.1	1.5	22.6
ナギ	1	1.8	0.007	0.2	1.0	9.2
亜高木種						
リンホク	3	5.4	0.053	1.5	3.4	19.1
サカキ	3	5.4	0.020	0.6	3.0	12.4
低木種						
シロバイ	24	42.9	0.128	3.7	23.3	15.9
ヒサカシ	5	8.9	0.017	0.5	4.7	11.8
シキミ	1	1.8	0.009	0.2	1.0	10.5
ヒサカキ	1	1.8	0.006	0.2	1.0	8.6
ウドカスラ	1	1.8	0.003	0.1	0.9	5.7
合計	56	100	3.500	100	100	

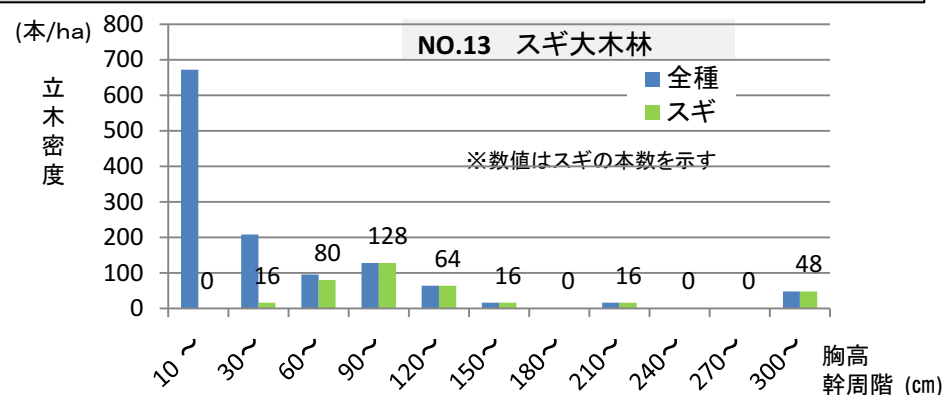
※胸高幹周囲10cm以上の樹木



斜面下部に立地

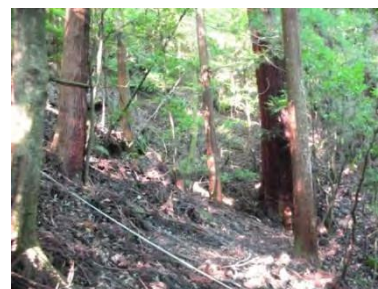


イチイガシの大木



調査区25m×25m	樹幹		胸高断面積		相対優占度	最大胸高直径(cm)
	樹種名	本数	相対値(%)	合計(m ²)		
高木種						
スギ	23	29.5	9.643	96.7	63.1	225.8
アラカシ	11	14.1	0.158	1.6	7.8	18.8
カヤ	2	2.6	0.003	0.0	1.3	4.8
ウラジロカシ	2	2.6	0.003	0.0	1.3	4.8
スタジイ	1	1.3	0.034	0.3	0.8	20.7
クロガネモチ	1	1.3	0.019	0.2	0.7	15.6
カコノキ	1	1.3	0.004	0.0	0.7	7.0
亜高木種						
サカキ	7	9.0	0.021	0.2	4.6	10.5
クロバイ	1	1.3	0.020	0.2	0.7	15.9
低木種						
イチイガシ	14	17.9	0.023	0.2	9.1	8.3
ヒサカキ	7	9.0	0.010	0.1	4.5	5.7
シキミ	4	5.1	0.008	0.1	2.6	5.7
シロバイ	3	3.8	0.022	0.2	2.0	11.8
アセビ	1	1.3	0.001	0.0	0.6	4.1
合計	78	100	9.970	100	100	

※胸高幹周囲10cm以上の樹木



山腹凹斜面



スギの大木